科学的ボランティア試験で高率（67%）に発疹が発現した．この発症機序解明のために，炎症性リンホカインの一つである白血球遊走阻止因子（LMIF）産生誘発作用について検討した．方法は，正常人のリンパ球と薬剤（CFCL，FR，OB およびマイトージェンの PHA）を4日間培養し，上清液を分離した．遊走試験はアガロース平板法を用いて，遊走指数（MI）値を求めた．その結果，3剤中 FR だけが PHA と同様に，対照群に比べ有意（$p<0.001$）に MI 値を下げた．更に，PHA+FR 群だけが PHA に比べ有意（$p<0.005$）に低い MI 値を示した．したがって，FR が LMIF 産生誘発作用，並びに PHA の LMIF 産生増強作用を有していることが示され，これらの作用により FR がβ—ラクタム剤過敏症の誘発能を高めることが示唆された．

8）Cefaclor 使用に伴う上咽頭検出菌の変化

冨山 道夫（水原郷病院 耳鼻咽喉科）
関根 理（同 内科）
樋口 興三（同 細菌検査科）

小児の耳鼻咽喉科領域感染症では感染が遷延化し比較的長期の抗生物質使用が必要となる場合があるが，これに伴う菌交代現象や MIC の変化に関する報告は少ない．今回は2週間の Cefaclor 使用を要した症例を対象とし，使用前後の上咽頭検出菌の変化を検討した．対象は平成3年2月より12月までの10ケ月間に当科で治療した小児急性中耳炎29名，慢性副鼻腔炎急性増悪例14名，溶連菌性咽頭炎2名計45名である．その結果は菌消失例16名，菌残存例29名で菌交代は3名にみられた．また前後に H. influenzae が検出された症例26名中5名に Cefaclor に対する MIC の変動を認めた．

9）マクロライド系抗生物質透析患者好中球の活性酸素産生能に及ぼす影響

甲田 豊・青木 信樹
高沢 哲也・薄田 芳丸（信楽園病院内科）

易感染性である透析患者において，マクロライド系抗生剤である JM，RXM，EM の3剤が，好中球機能の活性酸素産生能に与える影響を，透析患者10名，健常者6名において，全血のルミノール増強微弱発光法にて検討した．発光刺激剤は Opsonized Zymosan（OZ），Phorbormyristate acetate（PMA）を用い，抗生剤は最終濃度が 100 μg/ml となるようにし，80倍に希釈した全血とともに室温15分，37℃ 3分間インキュベートし LB 9505 で測定した．RXM は，透析患者，健常者とも好中球の in vitro 活性酸素産生量（最大発光強度 CLmax），産生速度（1/2 最大発光到達時間（T 1/2））を抑制し，特に透析患者でその傾向は強かった．JM は CLmax を増強させる傾向があった．マクロライド剤は，その構造により好中球に与える影響が異なる．RXM は好中球の活性酸素を抑制することにより，慢性炎症などの組織障害を軽減することが推測される．一方で，透析患者の急性細菌感染症には注意すべきと思われる．

10）MRSA 実験眼内炎に対する ABK の治療

阿部 達也・宮尾 益也（新潟大学医学部 眼科学教室）
本山まり子・大石 正夫

目的：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）実験眼内炎を作成し，これに対しアルベカシン（ABK）硝子体内注入を行いその治療効果を判定する．

対象及び方法：成熟白色家兎24匹48眼を使用した．臨床分離された MRSA 1株を培養し，10^4 CFU/ml の菌液に調整し硝子体内に接種した．ABK 500 μg/ml およびメチシリン 2 mg/ml をそれぞれ菌液接種6時間後及び12時間後に硝子体内注入し，4群に分けた．（各群6匹6眼ずつ）他眼はすべて無治療コントロール群とした．経時的に臨床スコア及び眼内生菌数を測定した．

結果：臨床スコアでは，コントロール群及びメチシリン投与群は重篤な眼内炎を呈した．ABK 投与群は軽度の前房内炎症のみだった．硝子体内生菌数は，メチシリン投与群はコントロール群との間に有意差はなかった．ABK 投与群では投与直後の観察時に0となった．

結論：ABK 硝子体内注入は有効であった．

11）経尿道的前立腺切除術におけるオフロキサシンの前立腺組織濃度と術後感染予防について

森下 英夫・中嶋 祐一（長岡赤十字病院 泌尿器科）
陳 暁

新潟県下19施設で経口剤のオフロキサシンによる経尿道的前立腺切除術後の感染予防を試みるとともに，血清および前立腺組織濃度を測定した．オフロキサシンは術前日に 600 mg 分3，当日は3から6時間前に 300 mg，そして第一病日の朝または昼より再び経口投与した．総症例数は90例で投与後3から6時間の血清濃度は 4.95 から 3.47 μg/ml，前立腺濃度は 4.39 から 2.31 μg/g で，前立腺／血清濃度比は 1.08 から 0.83 であった．術